

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
 〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
 日本聖公会東京教区会館内
 3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
 TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
 http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA 会報《季刊発行》

発行人 足立征三郎
 編集者 萩谷長生
 印刷所 株式会社スコポレーション

公 示

一般社団法人 日本聖徒アンデレ同胞会第105定期総会を下記の通り開催します。

2019年10月28日

会長 足立征三郎

記

日 時：2019年11月30日(土)12時45分 受付開始
 場 所：聖アンデレ主教座聖堂 東京都港区芝公園 3-6-18
 総会に先立ち評議員会(10時)および理事会(11時)を東京教区会館で開きます。

感謝礼拝聖餐式：13時

司 式：司祭 フランシス 下条裕章(本部チャプレン)

説 教：主教 ペテロ 濂澤一郎(中部教区主教)

入会式・再宣誓式：司 式：司祭 フランシス 下条裕章

第105総会：14時30分

第1号議案 2020年度事業活動計画(案)承認の件

第2号議案 2020年度会計収支予算(案)承認の件

第3号議案 BSA 創立100周年記念プロジェクト計画基本構想(案)承認の件

総会終了後、アンデレホールで懇親会を行います。

(会費：3,000円：16時30分ごろ終了予定)

響きあうBSAのために

BSAは2027年に
 創立100周年を迎える

時代の流れとともにBSAを取り巻く周囲の状況、活動実態も大きく変化してきている。BSA創立100周年をどう迎えるか。



BSA会長 マルチン 足立征三郎

BSAの基本理念は「祈祷と奉仕」「二人が一人を」とあり、御国拡張を目指すものである。会員分布を見ると「BSAは全国区」といいたが、東京・横浜両教区に集中し、盛岡と福岡支部のほか各地に個人会員が数人居られるのが現実だ。

BSAの裾野を広げ、BSAの顕在化をはかる

活動の広がりや発展を図るため、会員だけを対象にせず、BSA内で完結しがちな活動も、会員以外の人々に参加を呼びかけ、BSAを知り、馴染んで頂く努力をする。

2019年度は、BSAを取り巻く環境整備の年とした。知名度と理解度を、点から面に広げる。これがBSAのインフラ整備である。創立100周年までに聖公会のすべての聖職および信徒への働きかけを強化して、BSAの顕在化をはかる。

VISIONに留まらず、BSAの活動を広く知って頂く情報伝達手段を、「管区事務所だより」や各教区「教区時報」などの媒体に掲載依頼をしてきた。さらに努力を重ねたい。BSAは聖公会手帳に初めて広告を出稿する。BSAと聞けば、何であるのか分かって頂くようにしたい。

会員一人一人を大事にする運営

一昨年からBSAの動きを「本部だより」として支部長に送り、会員に伝える仕組みが出来た。本部と会員との回路が太くなり、そのことがBSAの一体感につながることを期待している。問題は、個人会員との一体感をどう高めるかである。会員あつてのBSAである。

「気になるBSA」を目指す

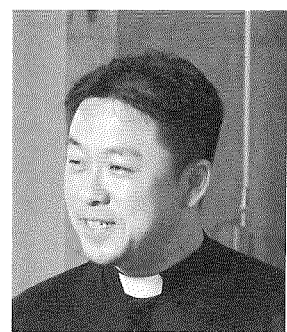
以上の取り組みを踏まえて、「BSA創立100周年プロジェクト計画基本構想」を次総会に提起し、2027年に向けての本格的な初年度とする。

基本構想に基づく個別具体的な活動は、通常の事業活動の中で実施する。それによって限られたマンパワーを有効活用する。BSAが直面する課題にしっかりと向き合い、100周年を迎える2027年には、互いの活動が「響きあうBSA」、周囲から見れば最近のBSAはこれまでもと違って、「何か気になること」をしている」といわれるBSAでありたい。

「神様はインマヌエル」

インマヌエル 新生教会牧師

司祭 ステパノ 卓志雄



今年1月池袋聖公会、東京聖マルチン教会、練馬聖ガブリエル教会は合併し、インマヌエル新生教会として新しく生まれ

た。建物の老朽化、財政の逼迫など内部維持の働きで精いっぱいになり外に向けての働きが難しい状況の中で、3つの教会が一緒にできることは一緒にやる、ということから私たちの動きは始まった。合同礼拝などで交流を重ねながら「安定した礼拝と力強い宣教」を大事にしてきた。新共同体の誕生は美談だけで終わる話ではない。

合併というプロセスの中には様々な葛藤があった。新共同体を創っていくには信徒一人ひとりの意見を聞きながら一つ一つの思いを大事にしてきたが、信徒それぞれの背景、価値観、環境習慣などは「当たり前」に「異なっている」という。従って必ずしもそれぞれの意見が一致していったとは言えない部分もある。しかし私たちが不完全さを認めながら神に祈りながら真剣に、真面目に、今までのプロセスを共に踏むことはできたと思う。

今年の夏はつらかった。韓国の人として日本の教会に仕えている者として。史上最悪だと言われている日韓関係。日本のメディアは「反韓・嫌韓」一色である。韓国における事情も日本と変わらない。両国のメディアに接することが嫌になっ

た。正確かつ信憑性のある資料や情報をもった前向きな姿勢で今後を考えているように見えな。国家の利益、集団の利益、個人の利益が「正義」という名前で綺麗に包まれている。私(たち)だけが「絶対的正義」を所有しているとは勘違いしてその正義の「剣」を振りかざし他人を断罪し相手を傷つける名分として用いられている。その結果、神が望んでおられる神とわたし、隣人とわたしとの関係性が壊れていく現状に心が痛い。

前述したような時、すなわちお互いの意見が対立する時によく用いられる武器は「皆そう言っているよ!」である。あまり使いたくないこの言い方は、人を批判や非難をする際、相手に対して多勢を借りた自己主張の正当化を図り、自分の発言に責任を持ちたくない心理である。こういう時、「皆違って誰でしょうか?」と聞きたくなくなるが、多分「皆」ではないはず。2、3人あるいは自分一人かもしれない。

もちろん皆(?)の意見を無視してよいということではない。人々の意見を大事にしなが「自分」としての意見をキチンと持つことも大事である。しかし私たちが人間は正しい結論を出すことはできないのかもしれない。主が私たちに何を望んでおられるかを識別するためには、まず共に祈りを献げ神の声に耳を傾けて主の導きを願ひ、互いに話し合っ、分かち合ったことに対して尊重する気持ちがあり、より重要であろう。これからは「皆そう言っているよ!」ではなく「神様はこう言っているよ!」を大事にしたい。

'19 研修旅行特集

長野カナダ・ミッシヨンの学び

千住基督教会
フランチェスコ 内野和明

二人の大和執事

初日に訪問した長野聖救主教会では大和玲子執事が、そして翌朝に訪問した新生病院・新生礼拝堂では大和孝明執事がそれぞれ礼拝司式をして、カナダ・ミッシヨンの歴史を説明してくれました。

聖救主教会の集会室を飾る歴代宣教師の額の半数近くは女性でした。中部教区の成立に果たしたカナダ人女性(30名)の活躍を肌で感じます。玲子先生はプロジェクトを用いて、創立者・ウォーラー司祭の着任(1892年)から始めて、最近の教会員による聖堂の照明の改修の働きなどを説明してくれました。

行政と聖公会の信頼と連携

今回のツアーの大きな学びは、ミッシヨンと行政の信頼関係の強さに驚いたことです。結核療養所に反対する声もありましたが、新生病院は最初から小布施町の理解を得て開設されました。

最後に訪問した軽井沢のシヨール記念礼拝堂は、町おこしのために行政が積極的に聖公会と連携しています。

『想いのアン』

小生の個人的な収穫としては、香蘭女学校の全校が鑑賞した映画『想いのアン』(1984、写真)の舞台が新生病院であることを孝明先生が確

認してくれたことです。集会所にはDVDも備えてありました。エキストラを務めた信者さんも健在とのこと。アンの悲恋はフィクションですが、アンの父親の医師は初代院長のスター博士がモデルとのこと。



シヨール記念礼拝堂

小布施から軽井沢に移動してバスを降り、シヨール記念礼拝堂に向かうと、うって変わって冷涼な空気に包まれました。トロント出身のアレキサンダー・クロフト・シヨールがこの地を避暑地に選んだ理由を体感できました。夕闇のせまる中、シヨール記念礼拝堂の内部の明るいLED照明が私たちを迎えました。

軽井沢の町の始まりはシヨールの一家が1886年(明治19)に2か月滞在したことです。礼拝堂の建設は124年前(1895年)で、その翌年には、なんとシヨールの提案で弟子が万平ホテルを開業しました。1970年代になると軽井沢で結婚式を挙げるのが大ブームとなり、立教卒業生によって旧軽井沢ホテル音羽の森が建てられました。

軽井沢町百年祭と牧師の定住

ここが教会として認可されたのは最近(2008年)です。いま信徒数は60名を超えました。

昭和年代までは夏だけ開く伝道所でした。

1986年の町の百年祭の事業として寄付が募られ、最初の別荘(シヨールハウス)が修復されて記念館となりました。教育委員会がリーフレットを作成しています。

中部教区は町議会の要請に応じて牧師の定住を決めました。私たちに歴史を説明してくれた土井宏純司祭はその2代目で、17年前に着任しました。

20年前から町の主催でシヨール記念祭がこの礼拝堂を使って行われています。中部教区主教やカナダ大使館が招待されるそうです。

研修旅行に参加して

市川聖マリヤ教会
グレース 神志那愛恵

9月10・11日に開催された今年の研修旅行に参加しました。昨年10月に行われた横浜山手聖公会でのセミナーから数えて、今回の研修旅行でBSAの催しへの参加は3回目となりました。

5月のセミナーの際に開催予定を耳にしてから、ずっとずっと楽しみにしていた研修旅行です。



小布施 新生礼拝堂前で

した。とは言え、BSAの皆さんは信仰生活はもちろん、人生においても大先輩です。ひよっこととセミナーに2回参加しただけの私がお邪魔にならないか、少しの不安もありました。

中部教区内の教会・施設を回りカナダミッシヨンの歴史を学んだ2日間。少し雨も降り、タイトなスケジュールではありましたが、参加者の間にはゆったりと穏やかな時間が流れていたように思います。研修旅行では、個人の旅行ではなかなか知ることの出来ない、各施設や教会の歴史を学び、祈りをささげました。自分が歴史ある聖公会の一員であることを幸に感じる一方で、これからの新しい時代に、聖公会らしさを大切にしながら宣教を続けることやその在り方について、もっと真剣に皆で考えなければならぬとも感じました。

私は今回の研修旅行を通じて、所属教会や教区を超えて、共に祈り奉仕するBSAの皆さんの思いの熱さを体感しました。また、この素晴らしい団体と活動をより沢山の方に知って欲しいと強く思いました。特に若年層の信徒と、既存の会員の交わりによって、きっとBSAはますます豊かな団体へと成長すると思えます。私自身も、先輩方と交わりを持つ中で、自分の信仰生活や奉仕について、立ち止まって考える良い機会となりました。旅行中には普段なかなか交わることがない他教会の方々とお話しをする機会が沢山ありましたが、皆さんどなたも日本聖公会への愛は共通していました。交わりの中で学ぶ、身近であったかな「仕え合う心」は何にも変えられない価値がありました。100年先も200

年先も、日本聖公会とBSAが豊かな団体であるように、祈り続けようと思います。

最後に、研修旅行担当の鳥崎さまを始め、理事の皆さま、参加者の皆さま、講師の皆さま、この度は大変お世話になりました。施設見学はもちろん、一緒に過ごされた礼拝、バス車内での聖歌合唱、懇親会、温泉：すべてが充実して心が強められた2日間となりました。次回の研修旅行を心から楽しみにしています。

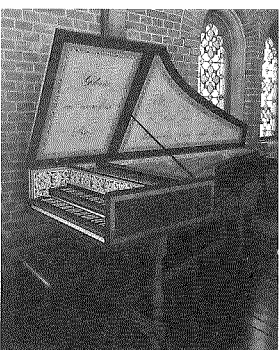
教会奉仕 私の流儀

長野聖救主教会
ヨハネ 中村 勝

先日BSAの方々から私どもの教会をお訪ねいただきました。その時に私が作ったチェンバロをご覧になった萩谷様とお知り合いになり、ここに寄稿させていただきます。

私は教会内で「中村工務店」と呼ばれるほどの工作好きです。退職した頃、当教会の牧師が不在になった時期が二年間ありました。教会が何か空虚になり、反面、信徒による自治感が高まり、私もあちこち造作したり、必要なものを作ったりしていました。

そんな中で、当時使われていなかった会館の一部屋を整理し、チェンバロの工房として「無断使用」することになりました。



奉献された手作りチェンバロ

た。二〇代からバロック音楽に携わっていたこともあり、それ以来チェンバロ作りが私の課題となりました。ピアノと違って、音色とともに構造が工作で出来、そうなるところが一番の魅力でした。その構造の知識も研究書物などから知らず知らず身につけてきたように思います。

さて、退職日が具体的にカウント出来る頃になって、外国のチェンバロのキットメーカーをネットで見つけました。日本に代理店があることをパソコンで突き止め、数ヶ月後には手元にキットが無事届きました。このようにして私のチェンバロ作りが始まりました。

チェンバロは外装を除けばほぼ白木の状態なので湿度や気温にとっても影響されます。響板という大きな薄いスプールの板が重要な役目を果たしているため、よく乾燥して縮小した状態で取り付けしないと、その後にはびが入る恐れがあります。木材の内部乾燥度を測ることも素人には出来ないもので、好天の続く時期を待たなくてはなりません。完成を急ぐ気持ちが逸つてその時期を多少見失った感もあります。私自身で演奏することはありませんが、完成直後からこの楽器を弾いて下さる演奏家が次々現れました。

その他、中村工務店には注文が相次ぎ、パスカルキヤンドルのスタンド、スロープ廊下の階段化、オランダの友人から届いた鐘の取付け、牧師館のフロアリング工事、土壁をボードに変える仕事などなど。つい最近では聖堂のシャンデリア製作にも取り組み、見事に仕上げました。

出来ないことより出来ることを探そう

—支部活動を考える—

理事 ダビデ 吉松英美

今年7月1日現在、支部は16、そのうち休会および活動停止状態の支部が複数ある。

支部活動の現状

7月6日(土)に開かれた支部長会議での報告(本紙167号参照)を聞くと、活動内容は、おおよそ3つに要約出来る。

- (1) 例会をきちんと守る。
- (2) 出来ることをする。
- (3) まず集まることを考える。

活動を継続している支部は例会をきちんと守っている。

盛岡、横浜聖アンデレ、清里、福岡の各支部では、聖餐式と再宣誓式を行なっている。

林間聖バルナバ教会支部では、毎月信徒叢書を読んでいる。南町田支部では、とにかく集まろうというわけで、花見をしたり、チャプレンを囲んだりして会の結束を固める努力に余念がない。(本紙167号参照)。

支部に吹く新しい風

最近の新しい動きとしては、房総支部が千葉県南部を中心とする房総支部と北部を中心とする北総支部に分かれて、活動をし易い体制にした。

また、東京の池袋聖公会、東京聖マルチン教会、練馬聖ガブリエル教会が統合してインマヌエル新生教会となったのに伴い、インマヌエル新生教会支部が発足した。

本部でも、支部のない教区への働きかけをしている。盛岡支部や福岡支部にも、周辺地域への支部創設を要請している。

3年前からは「本部だより」を発行、本部の動きが支部長を

通じて直接支部会員に伝わる回路も出来た。

出来ることを考えよう

支部活動を休む理由の多くは、実は活動中の支部も共有しているものだ。高齢化や若い世代の減少、メンバーの都合が合わないなどどこでも共通の課題だし、会をまとめる人がいないというの深刻である。

休会・活動停止中の支部長も人知れず悩み、苦勞しているに違いない。であるならば、休会・活動停止中の支部も支部長会議に出席して、自分たちの問題や悩みを出してはどうか。

休会・活動停止だからといって、恥じることはない。話しあうことによってお互いが学ぶことはたくさんある。

みんな同じように悩み、模索していることが分れば、気持ちも少しは楽になると思う。

大事なことは、出来ない理由よりも、出来ることに目を向けることではないか。ひよっとして目の前の風景が変わるかもしれない。今日は曇りでも、明日は晴れるということもある。

信徒叢書「聖書に聴く(二)」の著者速水敏彦司祭はこう書いている。「私にはどうも自分出来ないことを数え上げるくせがあるようだ。だがよく考えてみれば、たとえ八割できないことがあったとしても二割ぐらいはできることが私にもあるのではなからうか。これらの少しい「できる」ことをいくつか組み合わせて用いれば、私は思いもよらない大きなことができるようになるかもしれない。」

支部だより

房総支部からの「ご報告とお願い」

北総支部支部長 アウグスチヌス 岩間光雄

先に行われた房総支部総会において従来の房総支部を分割して(新)房総支部(以下房総支部と呼ぶ)と北総支部の二つの独立した組織として新たな活動を展開することが決議されました(本紙167号参照)。

全国のBSA支部の多くは教会単位で構成され、それぞれ独自の働きをしていると報じられています。今回、大型支部のダウンサイジング化の手始めに、まずは二つに分けてより小回りのきく体制作りを試みました。将来的には必要に応じてさらに細分化し、活性化を図ることも視野に入りたいと考えています。新しい二つの支部に属する教会と役員等は次の通りです。

房総支部

(千葉復活教会、茂原昇天教会、館山聖アンデレ教会、鴨川聖フランシス教会、銚子諸聖徒教会、福田聖公会)

北総支部

(市川聖マリヤ教会、松戸聖パウロ教会、柏聖アンデレ教会)
チャプレン 三原一男司祭(松戸)
支部長 岩間光雄(松戸)
補佐 萩谷長生(柏)
湯田啓一(柏)

これらの支部は10月の理事会で承認を受け、正式に発足する運びとなります。現在、改めて

支部結成式、再宣誓式を開催する準備を進めています。

(お願い)

9月9日の台風15号は房総半島で猛威を振るい、各地に停電、断水など大きな被害を与えました。特に館山聖アンデレ教会では、強風による屋根の一部損壊などの被害を生じました。一日も早い復興のためBSA会員各位にご加勢とご支援をお願いいたします。また、今後、具体支援策が定まった際には皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

連載「BSAと私」

(第8回)

伊達宗浩先生のことなど

盛岡支部 パウロ 相澤 洋

昭和31年、私が中央大学在学中に、北千束の清水窪小学校裏の下宿に住み、当初は渋谷の宇田川教会に通って居りました。夏休み中は室根聖ナタナエル教会で富子先生、ドレーパー司祭の指導で日曜学校を手伝いしましたが、村の子供達二、三十人が集まって紙芝居を中心とした活動でした。

その後、私の勤務地の関係で立教大学BSAとの関係は20有余年の空白が有りましたが、BSA盛岡聖公会支部に入会してからすでに60年余りが経過いたしました。

昭和31年、室根聖ナタナエル教会での立大BSAのキャンプに伊達宗浩先生がカウンセラーとして参加され、それが先生との初めての出会いでした。以来、三光教会に誘われ、同年のクリスマスには伊達先生御夫妻に教父母になっていただき洗礼を受けました。東

京時代の4年間の充実した教会生活を送れたのは偏に伊達先生と、当時立大生の山口彦君、今井潔道君、岩井君岩井隆志日銀監査役の御子息、水谷君等の青年諸兄の御支援の賜物です。

やがて彼等と教会に青年部を結成し、毎日曜日、礼拝後の役員会の昼食を仕立てる奉仕を始めました。その後、東京教区内に青年部を設けることになり、初代会長に外池圭二兄(現、福岡聖パウロ教会信徒奉事者)を選出して活動を展開しました。

当時、日本聖公会宣教百周年を記念する事業の最大の行事として、説教者にカンタベリー大主教を迎えて千駄ヶ谷の体育館で大礼拝を行うことが準備されていきました。東京青年部と立大BSAは大主教の警護役を任せ、体育館に集合して首尾よくその役割を果たしました。

昭和35年11月23日に室根聖ナタナエル教会が東北教区で戦後二番目の教会として聖別されました。この式典には立大生数名を引率した伊達先生が松下正寿立大総長と共に参列されました。



三光教会で伊達先生と共に

さて、近年は大阪のプール学院の皆さんがこの教会を宿舍としてボランティア活動をした

方たちが来訪し、逝去者記念礼拝に出席したりしています。今年の3月11日には林国秀司祭の司式で大震災8周年記念礼拝が行われ、旧知の信徒や立大BSAのOBなど11名が各地から集まりました。現在、ここに在籍する3名の信徒がBSA盛岡支部と連携をとりつつ室根聖ナタナエル教会の発展について話し合っています。

(写真…先生と私が一緒に写った唯一の貴重なものです)。

★一般ご家庭の引越 事務所引越
★オフィスの引越
★フロアーの移動 のエキスパート!!
★各種展示会セッティング etc...

株式会社ギンテック

港区港南3-4-12
TEL 0120-223-008
TEL 3471-5313

ホームメイド・チーズケーキの店

CHEESE CAKE
JOHANN
HOME BAKED MADE

和田博子
目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503

立教企画グループ

学校業務受託、人材派遣等承ります。

株式会社 立教企画
株式会社 立教オフィスマネジメント
株式会社 立教ファシリティマネジメント
株式会社 立教ライブラリーマネジメント

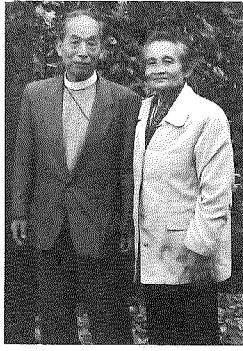
http://www.rikkyo-planning.co.jp

連載 忘れ得ぬ人々(3)

アブラハム植松従爾主教

BSA名誉チャプレン 主教 バルナバ 武藤六治

終戦の翌年(1946年)の春、植松従爾主教(当時執事)は宿谷司祭と共に当時の佐々木鎮二首座主教から一通の辞令を受け取りました。「清里に行きポール・ラッシュユ氏(BSA)の計画に協力せよ」というものでした。宿谷・植松の両師は同年配で、中学生の時から大学・神学院を卒するまで野瀬秀敏主教(当時長老)の下で生活し、共に中国伝道に従事したことのある大親友です。二人はその辞令を謹んで受け、また共に働けるのを喜びあつたのです。



ありし日の植松主教ご夫妻

宿谷・植松の両師が清里に赴任したのは1946年7月2日のことですが、その前日、二人は当時マッカーサー司令部の軍人だったポール・ラッシュユ氏を東京麹町にあった氏の事務所を訪ねました。「明日清里へ行きます」という二人をポール先生は非常に喜んで迎え「頑張つて欲しい」と励ましてから「何か必要なものないか」と尋ねます。戦後の何もない時代です、ポール先生は二人の山の中の生活を心配したのでしよう。

ル先生に宿谷司祭・植松執事は「それだけで結構です」と答え翌日清里へ赴くのです。植松主教は後年(1997年)に宿谷司祭と一緒にこの清里行きの様子をある冊子に書いていますが、その後半だけをそのまま記してみます。「(1947年7月2日)...

清里駅の裏から山にはいり、学生時代の記憶を辿りながらなんとか無事に清泉寮に着きました。無人のキャビンを掃除して取り敢えず一夜を過ごしました。翌朝「おい起きろ、ミサだ」と宿谷司祭に起こされ二人で聖餐式を捧げましたが、これはその日以来、清里聖アンデレ教会の年間を通しての毎朝の聖餐式として、歴代の牧師たちによって今日に至るまで続けられております。あの「ブドウ酒を一本ください」でポール先生からいただいたブドウ酒でのミサ、それによって今の清里のキープ協会の働きは始まったのです。本当に意義深い聖餐式でした。植松主教はポール先生の働きを偲ぶ度に、そして先立たれた宿谷司祭を偲ぶ度に、何度も繰り返して「最初の清里行き」のことを私(武藤)に語ってくださいました。

1976年9月15日、中部教区の教区会は植松従爾師(当時横浜区長坂聖マリヤ教会牧師)を次期中部教区主教に選出しました。私(武藤)は直ぐその知らせを受けました。その夜、浜松聖アンデレ教会牧師の宿谷司祭から私に電話がありました。「植松が中部教区の主教に選ばれたのを知っているだろう。今、電話したらあいつ留守なんだ!明日長坂に行つて俺が必ず受けるようにと言つたと伝えろ」命令口調でした。植松司祭はこの日何かの会議で横浜出

張で翌朝早く帰ることになつていました。私は翌朝(16日)長坂に行きました。既に中部教区の使者―水藤司祭・久保田司祭―が帰る所でした。私は宿谷司祭の伝言を告げました。「今、お受けすると応えた」と植松師。何時もならずごく長居をする私ですが、私はポール先生に知らせたくて急いで清里に帰ろうとしました。すると植松司祭が「私も一緒に行く」と言つて私の車に同乗しました。ポール先生はその頃体調が思わしくなくベツドの生活でした。私たち二人が入つて行くとポール先生「どうした?」。植松司祭が主教に選ばれたことを告げるとポール先生は笑顔で「おめでとう、私はあなたが主教になると信じていた、お祈りを!」。私が拙い言葉で祈り、三人で主の祈りを唱えました。ポール先生は英語で二人は日本語で...。突然ポール先生の言葉がつまりました。植松師のそれが涙声に...。私も泣きました。そしてポール先生と植松主教との相互の信頼を強く感じました。

忘れ得ぬ人々として、アブラハム植松従爾主教を偲ぶとすれば、私には枚挙にいとまがありません。ポール先生と宿谷司祭とに関わることをだけ記しました。

教会報の編集に携わる日々

松戸聖パウロ教会 コルネリオ 丹治隆雄

私たちの教会は、来年、前身の松戸集会伝道所から数えて宣教45周年を迎える。1970年代のはじめ、常磐線沿線に七つの教会を作ろうという運動があり、その一つが松

戸にも教会を」と願う人々の家庭集会であつた。そこに集まつた人々たちを繋ぐものとして、「松戸集会便り」が発行された。代表はBSAにも縁の深い八木立三師。1972年のことであつた。

「松戸集会便り」誕生のことは本紙166号でBSAの吉松理事が書いています。1975年に松戸集会伝道所が開設され、1993年には念願の松戸聖パウロ教会が聖別された。「松戸集会便り」は、153号まで続き、現在の「YARD」へと改称された。私は「松戸集会便り」の51号から編集に加えてもらつた。その頃は松戸駅前であつた青山さんという人の家で編集会議を開いていた。毎月一回、仕事を終えて集まり、風呂に入り、夕食をご馳走になりながらの会議であつた。「偏酒会議」などと揶揄された。だから、青山師が亡くなつた時は、教会報もこれで終わりかと思つた。しかし、そういう時には、神様はちゃんと後釜を用意してくださる。

東北教区への旅

インマヌエル新生教会 ヨハネ 松平謙次

私の属するインマヌエル新生教会は今年3教会が合同してで

きた教会ですが、合同する前の旧練馬聖ガブリエル教会は東北教区の2つの教会と繋りを持つてきました。一つは福島県の会津若松諸聖徒教会、あと一つは同じ福島県の新地にある磯山聖ヨハネ教会です。若松の教会は他教区・他教会との交流を深めようという東京教区の05年の教区決議に基づいて交流を始め

た教会であり、新地の教会はその翌年から、先の東日本大震災の津波で亡くなられた三宅實さんを通して繋がった教会です。若松の教会はここ数年目に見える交流は途絶えていました。が、昨年牧師として八木正言司祭が着任したことを機に、今後の交流のあり方を考えようという事で司祭と信徒8名が9月29日(日)に訪問しました。現在教会は建物はなく、付属の聖愛幼稚園のホールで礼拝が行われています。当日は信徒7名の方と共に八木司祭の司式・説教で聖餐式を捧げ、その後は信徒の方々の心のこもつた手づくりの食事をいただきながら交流・親睦のひとときを過ごしました。この教会は主日礼拝出席者は10人いるかないの小さな群れですが、昔から南東北、地域宣教にかける思いは熱いものがありました。約20年前には空き地



主教座聖堂 仙台キリスト教会

だつた隣地を買い上げ、数年前には木のぬくもりの溢れる素晴らしい幼稚園園舎の新築、そしてさらに隣地を買い上げ、現在新しい聖堂建築を目指して準備中と聞きました。新しい聖堂建設を計画中の私たちもその意気込みには大いに刺激を受けました。

この日は仙台に移動、翌日は諸天使の祝日でしたので大聖堂で10時から聖餐式に出席、その後加藤博道前主教と共に新地向かいました。新地の教会の信徒だつた三宅實さんはこの前の大震災の津波で奥様と家ごと流され、ふじ幼稚園の先生だつたお嬢さんの中曾順子さんは園児をかばいながら低体温症で亡くなりました。教会に向かう途中ふじ幼稚園に立ち寄り、コスモスの咲き乱れる旧園舎の前で祈りを捧げました。磯山聖ヨハネ教会は純農漁村だつた新地に米宣教師だつたA・L・ランソン女史によって約90年前に建てられた教会ですが、先の大震災と老朽化によって解体を余儀なくされ、2年前少し離れた場所に新たに建設され、旧教会跡地は「祈りの庭」として整備されています。新しい聖堂では中心的な信徒であり、大震災の折にはご家族と共に九死に一生を得た経験をお持ちの三宅信一さん(三宅實さんの従兄弟)に貴重な体験談を伺いました。その後「庭」に移動し、埴浜(ちかはま)を眼前に望み、祈りを捧げた後、全員で祈りの鐘を打ち鳴らしました。

このようにして今回の我々の旅は終わりましたが、祈りを通じ、またお互いに顔の見える関係をもちながら他教区・他教会と繋がる大切さを改めて実感する旅となりました。

信徒叢書のある風景(2)

林間聖バルナバ教会

林間聖バルナバ教会のある相模原市は、神奈川県北東部、東京の町田市に隣接する新興都市である。人口も年々増えて数年前に区制を敷いた。林間というからには、昔は一面林が広がっていたのだろう。

林間聖バルナバ教会の歴史は1962年の信徒宅での家庭集會に遡る。その2年後に伝道所を開設、1966年に牧師館兼仮礼拝堂が落成し、1967年礼拝堂を聖別した。

教会は信徒の河合慧四郎さんの設計になるもので、1995年に建て直し、新たに聖別された。礼拝堂の両側の窓にはステンドグラスがあしらわれていて明るく華やかな感じがする。教会員は200人を超えるが、主日礼拝に出席するのは平均して55名。婦人会の活動も盛んである。

ここにBSA林間支部ができたのは、2007年6月。13名で発足した。その年の12月にはBSA第81総会が開かれた。

林間支部での勉強会は、2016年7月に始まった。現在の牧師である片山 謙司祭から「信徒叢書の勉強会を開いてはどうか」という助言を受けた。金子 眞さんが中心となって、毎月第2主日の午前9時から45分間を利用している。

多い時には15人から20人というところもあったが、最近では平均して10人が参加している。

これまでに読んだ叢書は、『聖公会という名の教会』(1、4)、『キリスト教史』(1、2)、『サクラメント』、『十字架』などで現在は『復活』を読んでいる。

片山司祭からは、折に触れて助言と指導を受けてきた。参加者からは「系統的な勉強会が出来る」と好評だという。

信徒叢書勉強会は、教会のホームページでも紹介している。

叢書の半分ほどを読んできた感想として、金子さんは、叢書の改定と新刊の発行を強く望んでいる。勉強会が発足した2016年から2019年2月までに、同支部からの注文は307部にもなる。金子さんの奉仕の精神が会をしっかりと支えている。

(理事) ダビデ 吉松英美

100周年プロジェクト報告

BSA100周年プロジェクトでは、7月29日(月)の例会で、2007年5月に実施した「BSAのルーツを訪ねて」シカゴ・ケンタッキー・ニューヨーク8日間「の旅のチラシやVISION掲載の記事を読んだ、その時の旅がどんなものであったかを振り返った。100周年プロジェクトでも、アメリカのBSA発祥の地シカゴとポール・ラッシュの故郷を訪ねる計画が「事例」と

して挙がっている。旅行の意義、時期、旅程、経費、会員の年齢等を検討して、実施するかどうかを決めることとしている。8月27日(火)の会合では、来年度の事業活動計画に盛り込む具体的な活動について話しあっている。

BSA創立100周年記念ロゴマーク募集

BSAでは次の要領でロゴマークを募集しています。奮ってご応募ください。

構成要素とその他の要件
BSAの理念「祈禱と奉仕」(一人を「設立年(1927)、100周年(2027)、シンボルマークのアンデレクロス等をあしらったデザイン。モノクロまたはカラー。はがきサイズ(2×2センチメートル程度)に縮小使用が可能なもの)。

マークの使用範囲
各種印刷物、ウェブサイトを等含むすべての媒体。
応募者と応募の方法
BSA会員等、聖公会の聖職、信徒、その他。一人一作品をBSA本部100周年記念プロジェクト係宛に郵送またはメールで送信。
締切
2020年1月31日
なお、選考の結果は本紙紙上およびBSAホームページに発表し、当選者には記念品を贈呈します。
(詳細については左記までお問合せ下さい)
〒105-0011
東京都港区芝公園3-6-18
日本聖徒アンデレ同胞会
100周年記念プロジェクト係
電話 03-3432-4325
FAX 03-3432-1696
メール psa@nskk.org

「VISION」文芸

野田 徹

秋風に色とりどりの木の実舞う
静かなりカッコウ去りし森の朝
山おろし短き夏に終わり告げ

松岡正治

秋風やニコライ堂の坂下る
黄葉の下に小さな祠かな
早禱に集う人々竹の春
花栗の匂ひの残る乙女かな
疎開児が通いし道や秋日和
昼過ぎに一人歩くや秋遍路

萩谷長生

信濃路の聖歌奉唱清らなり
若き執事のギター響き
手作りのチェンバロ奉獻せしという
心打たれしその友の技

吉松英美

紺青の空に積乱雲の屹立して
耳をすませば遠雷聞ゆる
カザルスの高弟なる人のチェロを聴く
演奏歴65年の音色は深し
目の前の被爆者の声に耳塞ぐ
あなたはいつたこの総理か
読書や新聞開く人おしやべり
居眠り人を待つ喫茶店の昼下がり
寄贈者の名を記したる聖歌集
その人憶えて歌う主日礼拝

歓迎新入会員

エステル 荒井 翠姉
千葉復活教会(房総支部)

グレース 神志那愛恵姉
市川聖マリヤ教会(北総支部)

グレース 佐藤恵子姉
聖ルカ礼拝堂(聖ルカ支部)

バルナバ 萩原輝晃兄
(三光教会)

ステパノ 渡邊雄介兄
市川聖マリヤ教会(北総支部)

BSAに入会して

北総支部 ステパノ 渡邊雄介

私とBSAとの出会いは、立

教大学での学生時代に遡りま

す。折角キリスト教の大学に入

学したのでからとチャペル団体

の一つであるBSA第8支部に

入会し、仲間とともにワークキャ

ンプやボランティア活動に汗を

流しました。当時、クリスマス

の支部員は一人もいませんで

したが、「祈禱と奉仕」の精神は

受け継がれていて、毎週のミ

ティングは必ず祈りと聖書朗読

をもって始めていました。さら

に、顧問チャプレンの指導や他

のチャペル団体との交流を通じ

て、キリスト教の精神に触れる

機会が多くありました。その

ような環境の中で感化された私

は、20歳の春に東京教区聖救主

教会で洗礼・堅信を受けました。

大学を卒業し、サラリーマン

となった私は、教会生活は送っ

ていましたが、BSAとは疎遠

になりました。学生時代から日

本聖徒アンデレ同胞会(BSA)

の存在は意識していましたが、

大学を卒業し社会人になったば

かりの若造には何となく敷居が

高かったのと、当時の所属教会にメンバーがいなかったこともあり、入会することはありませんでした。

その後暫くして、東京教区の集まりで故本明夫兄と知り合う機会があり、大変熱心にBSAに誘っていただいたばかりか、私の立教BSAの後輩達にも目を掛けていただきましたが、私の事情や阪本兄の病氣療養・ご逝去に伴い、その恩にお応えすることは叶いませんでした。

11年前、転居を機に現在所属している横浜教区市川聖マリヤ教会に転籍しました。市川の教会は日本聖公会の中でも信徒数が多いのですが、その信徒数に比してBSAの会員は少なく、教会の中でBSAのことを聞くことは全くといって良いほどありませんでした。そのような中で、ここ数年はBSAのことを殆ど意識することなく教会生活を送って来ました。

そうした状況が変わったのが2年前でした。当時、教会委員を務めていた私は、千葉県や北総地区の聖公会の集まりに担当者として出席するようになり、そこで、多くのBSAの先輩方が各地の教会で何の街いもなく「祈禱と奉仕」を実践されている姿を目の当たりにし、BSAへの想いが再燃してしましました。そうしたところ、同じ北総地区でお目に掛かる機会があった柏聖アンデレ教会の萩谷長生兄からお誘いいただき、今回入会させていただくことになりました。

「BSAに入会して」と題しましたが、どちらかといえばBSAに帰ってきて」という想いが強いのです。40歳を目前にした今、これからはBSAの一員として、「祈禱と奉仕」の精神を忘れることなく、今までお世話になった様々な出会いへの恩返しをしていきたいとの思いを深めています。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
(市川聖マリヤ教会)

清里高原だより 清泉寮ニユース

清泉寮のクリスマス 宿泊プランやイベントも

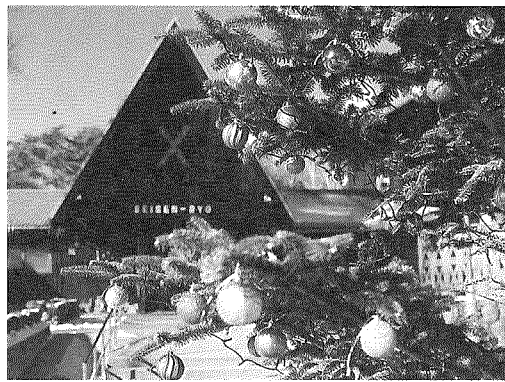
清里高原は日に日に秋が深まり、いよいよ冬の気配も漂い始めて来ました。
清泉寮では、来たるクリスマスに合わせて様々な催しや宿泊プランをご用意して皆様のお越しをお待ちしております。

●ご宿泊プラン

一年でも限られた期間しかオープンしない貴重な本館レストランのスペシャルクリスマスディナーが楽しめるプランや、新館レストランのカジュアルなクリスマスビュッフェ付のプランをご用意しております。



24日(火)にお泊りのお客様には、20時から清里聖アンデレ教会で行われるキャロル礼拝への特別送迎バスを運行いたします。礼拝の後には、清泉寮新館ラウンジで温かいお飲み物とお菓子ををご用意いたします。
●カウントダウンクリスマス
ご家族やご友人、ご夫婦でクラブトや体験を楽しみたい方に



●おすすめの催しです。

12月14日(土)14時より、清泉寮新館ホールにて自由参加のクリスマスクラフト作りや暖炉で焼きマッシュマロ、お子様向け絵本の読み聞かせなどを行うほか、森の中の火おこし、星空観察、翌朝の自然ガイドなどの自然体験ツアー(要予約)も開催いたします。

14日ご宿泊の方限定の催しです。ぜひ大切な方とご一緒に清里の自然やゆつたりとした時の流れをお楽しみください。

●コンサート

21日(土)、16時より新館ホールにてマンドリンクラブ・MCカンタービレによる、通算27回目となる「清泉寮Xmasコンサート」が開催されます。マンドリンの音色と素晴らしいハーモニイをお楽しみください。
●ご予約不要・無料です(会場金を受け付けます)。
また、22日(日)にはクラリネット奏者神田将吾さんとピアノニスト藤岡弘子さんによるクリ

「青年への希望」
インターンシッププログラム
キープ協会では今年も多くの海外インターン生受入を行ってまいりました。5月下旬〜7月中旬にはアメリカ・ケンタッキー州ペリア大学より2名、7月上旬〜8月下旬にはフランス・リール大学より2名の受入を行い、それぞれ英会話プログラムやポール・ラッシュ記念館、清泉寮自然学校での研修を行いました。現在はフリーピン・バギオ市の環境NGO、CGNより、2名の受入を行っています。両名ともフリーピンのコーディネーター地方と呼ばれる山岳地帯で、アートを通じた環境教育の普及に携わっており、同時に環境保



スマスコンサートを行います。全国各地で多彩な分野で活躍するお二人のクラリネットとピアノが織りなす音楽の贈り物を、ぜひ清里の自然の中でお楽しみください。こちらはご宿泊のお客様は無料です。コンサートのみ鑑賞される方は、2000円ご予約が必要となります。

ご宿泊やコンサートのご予約、各種催しなどのお問い合わせは、清泉寮フロントまでお電話ください。
清泉寮フロント
05511481211

全を目的としたアラビカコーヒーの植林事業にも携わっています。
11月には「清里イングリッシュキャンプウインターセッション」を計3回、清泉寮自然学校で予定しており、英会話や自然教育を求める子どもたちに楽しいプログラムを提供する予定です。またポール・ラッシュ記念館でも、土を使って絵を描く「ソイルペインティング」のワークショップを開催するほか、滞在中に制作した作品の展示も期間限定で行います。国際交流、環境教育、文化交流といった様々な面での実りのある滞在を立ててもらえることを期待しています。
問い合わせ…企画部
055114812688

計報
司祭 テモテ
小笠原 忍師
9月19日逝去
(87才)

会費納入のお願い

BSAの運営は皆様の会費、賛助会費を財源として実施されております。今回、今年度の会費等納入のための振込用紙を同封させていただきます。ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます(過年度未納分も併せて受け付けております)。

聖公会手帳にBSAの広告

2020年度の聖公会手帳にBSAの広告が初めて登場します。これによって、今まで以上に、そして日常的に、BSAのことが聖公会関係者の目に触れることとなります。
BSAでは、その存在を広く知ってもらい、BSAに対する関心と理解を高める活動(インフラ整備活動)を2019年度から行なっています。



お詫び訂正

本紙前号(167号)1面の巻頭言(大野清夫司祭)の編集で誤記、脱字がありました。お詫びして以下の通り訂正いたします。

- ① お話しては↓お話では(3段9行目 送り仮名)
- ② 結びつけられた「同胞会」↓結びつけられた組織です。「同胞会」(5段3行目 脱字)

編集後記

台風15号に続く超大型19号の猛威。もはや地球温暖化との因縁生起を傍観できない事態に至っています。被災された方々にお見舞い申し上げます。研修旅行で訪ねた長野聖救主教会で目にしたハーブシコードは信徒が手作りした由。その匠、中村勝兄からの投稿を2面に掲載しました。

久々に「歓迎新入会員」欄が賑わいました。会員増が創立100周年に向けてのうねりであれと願っています。(N・H)

St. Luke's
会員制健康クラブ
聖路加フレンズ
株式会社聖路加コーポレーション
聖路加フレンズ事務局
https://www.stlukes-friends.com/
聖路加フレンズは、
健やかなところとからだをつくるための
会員制健康クラブです
☎ 03-3541-1056
受付時間 平日9:00~16:00
(土・日・祝日を除く)

創立94年の恩人 ポールラッシュ
学校法人メイウシヤマ学園
ハリウッド大学院大学
ハリウッド美容専門学校
〒106-8541 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドプラザ
☎ 0120-083394 www.hollywood.ac.jp